

事業所名： SOMPOケア そんぼの家 GH釜石平田

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0391100153		
法人名	SOMPOケア 株式会社		
事業所名	SOMPOケア そんぼの家 GH釜石平田		
所在地	〒026-0001 岩手県釜石市大字平田平田第一地割1番31		
自己評価作成日	令和3年11月12日	評価結果市町村受理日	2022年3月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人一人の利用者様のできることできないことに対し共に行いながら生活できるようにしている

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action.kouhyou
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人は全国で介護事業を展開し、県内や釜石市内にも系列の介護事業所を展開しており、事業所相互に協力しながら運営されている。事業所は、緑の多い閑静な住宅地の中に以前あった建物を活用し、令和元年4月に開設され今年で3年程になる。運営に当たっては、会社の行動指針に掲げる「自立支援とカスタムメイドケアを通じQOLの向上を目指す」ことを達成目標として取り組んでいる。定例会や内部研修会で事業所の達成目標について説明し、更に介護場面での具体的事例に結び付けて話すことにより、職員は入居者の力の発掘を意識した介護を実践するようになっている。24時間対応の協力医療機関や歯科医院、系列の訪問看護ステーションと連携し、医療環境の面でも充実した取り組みが行われている。コロナ禍にあっても、感染予防に配慮しながら利用者や家族の面会が行われ、また外部の方との接触到配慮しながらドライブに出掛けるなど、閉鎖的になりがちな社会情勢にあっても、管理者は、家族や社会との関りを絶やさず、次に続く人々の介護の姿を意識しながら利用者に接している。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和4年1月13日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

事業所名 : SOMPOケア そんぼの家 GH釜石平田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を念頭におきながら利用者様のできることを大切にしながら業務にあたっている	会社の行動指針を達成目標とし、定例会や内部研修会で「目標」を説明し、併せて介護場面での具体的事例に結び付けて職員の理解を促している。「目標」は更衣室のロッカーにも貼って共有し、職員は、入居者の力を発掘し支援することを意識した介護に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方への挨拶を行い、声を掛け合えるようになっている	地域の町内会に加入したり、近所の方への挨拶や声掛けを行うことにより、少しずつではあるが繋がりが出来てきている。コロナ禍前は、夏祭り風な催しを行い近所の方も来てくれており、今後は、こども園の子ども達との交流にも広げたいと考え、コロナ禍の一日でも早い収束を願っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会等、地域の方にもご参加いただく運営推進会議の場で事業所の取り組みや利用者の状況等をお伝えしている。各種行事に近隣住民の方へ参加を呼び掛けていきたいが、感染症対策のため実施できていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて利用者の状態・現状を報告し、ご意見をいただいた際には、事業所内にて共有を図っている。	運営推進会議は、コロナ禍にあっても、令和2年以降1、2回休んだ程度で、殆ど開催されている。入居者の状況や事故・ヒヤリハット、感染予防対策などの取り組み内容を報告し、委員も事業所と同じく、コロナ禍収束後を見据えた地域との交流に期待している。	運営推進会議の委員として利用者の家族やこども園の関係者を招聘することについて、検討を進められることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	担当者の方への報告、疑問点の問い合わせ等、その都度確認しながら取り組んでいる。	要介護認定申請などで訪問した際には、市の担当者と言葉を交わすようにしており、担当者は、コロナ禍での対応や大雨について一緒に心配してくれている。担当職員は、運営推進会議委員として事業所の考えや実態を承知しており、様々な行政情報も提供してくれている。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : SOMPOケア そんぼの家 GH釜石平田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中玄関は、自動ドアとし。夜間を除き、施錠はしていない。利用者が出かけたいときには職員が付き添う等、各利用者に合わせて対応している。	身体拘束適正化のための指針を作成し、管理者、計画作成担当者、デイサービス看護師で構成する委員会を3ヵ月毎に開催し、その内容は職員へ周知している。車椅子利用者に対する身体拘束を防止するためのテーブルの使い方などについては、その都度職員を指導し、身体拘束にならないよう取り組んでいる。離床センサーは使用していない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	虐待・身体拘束防止についての研修を定期的で開催し、虐待防止・身体拘束廃止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に研修の機会を設けている。現状、該当する方がいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約等の際、丁寧でわかりやすい説明に努め、質問や疑問にはその都度お答えしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご本人様、ご家族様から意見や要望があった際には口頭で回答し、また、職員間で共有している	利用者の要望は、服が欲しい、何か食べたいとするものが多い。そのため、定期的に移動販売車を呼んで服購入の機会を作ったり、職員と一緒に手作りのおやつなどを作って食べるようにしている。家族からは、面会時やケアプラン更新時に意見をいただいております。職員間の情報共有などについて前向きな意見があり、改善に取り組んでいる。会社として、毎月請求書に併せて簡単な家族アンケートを実施している。	訪問時の面会カードに家族の意見・要望を記述するなどの工夫を行うことにより、事業所内での情報共有が円滑に進むことを期待したい。

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : SOMPOケア そんぼの家 GH釜石平田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の定例会議等にて、職員の意見を聞く機会を作り対応している。	管理者は、毎月の定例会や毎日のミーティング・申し送りで職員から意見や要望を聞いている。また、行事、物品、衛生の各委員会があり、担当委員会が毎月物品をチェックし、必要な用品を購入している。管理者は、職員からの情報を聴き取り、支援の在り方などについて、話し合いながら調整している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に事業所を訪問したり、職員の意見を集約したりしながら処遇の改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職域ごとの研修や職能に応じたOJTの機会を設け、また、社外の研修についても必要に応じて業務として参加できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社内研修や外部の研修会等、情報を提供し参加の機会を作っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約前にご本人様のお気持ちや生活についての意向等を伺い、また、事業所として出来ること・出来ないことをご説明し、共同生活の中でどのように過ごしていただくかご理解いただけるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時や電話で状況の報告をしながら家族様からの要望を聞くようにしている。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : SOMPOケア そんぼの家 GH釜石平田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現状の困りごとに対し、優先順位を設定して支援できるよう努めている。状況により、医療機関の受診や他サービスの利用をお勧めすることもある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員が生活のすべてを介助するのではなく、ご本人様にできることはご自身で行って頂くよう、声掛けをしながら対応している。また、ご本人様が残存機能を活用できるよう、福祉用具の活用等、環境整備にも努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様に対し、入居後の生活においてご協力いただきたいこと(通院付き添い等)をあらかじめお伝えし、入居後もご本人様とご家族様が関係を途切れさせることがないように図っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染症対策を講じた上で、面会者の限定をせずに馴染みの方との交流が続くように図っている。また、ドライブクの際に各利用者の自宅周辺に立ち寄る等、馴染みの場所との関係が途切れないよう図っている。	感染症対策を講じた上で、面会を行っており、家族以外の面会もある。また、海岸や自分の家の近くなどの馴染みの場所への訪問をドライブの目的とするよう配慮している。先日は、クリスマス・イルミネーションを見学するため、夜の時間帯に出掛けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性に配慮しつつ、トラブルや孤立感がないよう、利用者の輪の中に入りながら支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了(退去)後の生活について、必要な援助を受けられるよう関係機関との連携に努めている。ご本人様、ご家族様についても、退去後の生活についての不安感等をよく伺い、支援を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様の思いや意向、これまでの生活の様子等を折々で伺いながら、ご本人様らしい生活を送っていただけるよう支援している。	入居者の思いや意向は、ミーティングで話し合い、職員間で共有したうえでケアプランに盛り込み、個人ファイルに記録している。ここで生活することに納得していない利用者があり、その都度本人の訴えを聴き、家族と話したいとする場合には、家族の協力を得ながら対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様やご家族様、関係機関担当者(前任のCM等)からの聞き取りにより、情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の心身状態や生活状況、できることの把握、観察に努め、職員間で情報共有しながら支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様の習慣、できることに配慮し、ご本人様らしい生活を送っていただけるようカンファレンスにて介護計画や支援内容を検討している。	計画作成担当者は、本人・家族や職員などの情報から原案を作成している。介護に従事する全職員で短期目標として設定した事項を評価し、状況に応じ新たな目標を追加している。見直しは、3か月又は半年単位で行っている。介護計画は、本人や家族に説明している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間で個別記録の回覧や報告事項等の情報共有を徹底し、利用者の生活状況や申し送り事項等について、職員一人ひとりが自分の出勤日以外のご様子についても十分に確認しケア業務にあたるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問診療医や歯科医、訪問看護事業所、各種ボランティア等との連携により、幅広いニーズに応えられる体制作りを図っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域住民の方々との交流を基本とし、ご本人様やご家族様の意向を踏まえ、必要に応じて地域資源の活用を検討、提案している。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : SOMPOケア そんぼの家 GH釜石平田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	通院の付き添いは基本的にご家族様に依頼している。ご家族付き添いによる定期受診が困難になった方については、ご本人様、ご家族様にご納得いただいた上で訪問診療へ切り替えていただいている。受診先医療機関には、心身状況の変化や生活状況等について適宜情報提供を行っている。	家族の通院付き添いが困難になった場合には、申し出により24時間対応の協力医療機関にかかりつけ医を変更し、現在では8名の利用者が協力医療機関を受診している。1名は家族対応で受診しており、受診の結果は即日口頭で報告を受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護事業所との業務委託契約に基づき、月に4回、看護師に訪問していただき、療養上の助言を受けている。利用者の体調に変動があった場合には、その都度状態を報告し指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院した際には医療機関への情報提供を行っている。入院中には病状の変化や退院調整等、医療機関の担当者との連携に努め、退院時には医療機関からの情報提供を受け、円滑に再入居できるよう図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の事業所としての対応方針や、できること・できないことについては、契約時にご説明し、同意をいただくようになっている。実際に重度化した際には、ご本人様やご家族様へ意向の再確認や対応方針の再説明を行い、主治医等とも十分に連携を図りながら、意向に沿った対応をとれるよう努めている。	重度化や終末期の対応方針は、入居契約時に説明し、利用者・家族の同意を得ている。状態が変化してきた場合には、協力医や看護師との連携を図りながら、家族の意向を再確認した上で対応方針の再説明を行っている。今年になって、看護師の助言を得ながら、初めて1名の看取りを家族と共に行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	体調急変時や事故発生時の対応について、研修や訓練を定期的に実施して備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非常災害時の対応や防災について、定期的に研修や訓練を行っている。近隣の福祉施設に避難する体制としている。	消防署立ち合いのもと年2回、隣接のデイサービスと合同の火災避難訓練を日中に実施しているほか、車での避難訓練を年1回行っている。近隣の方からは、協力の意思表示を得ている。災害に備えて、3日分の食料や介護用品などを備蓄している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各利用者について、どのような人生を歩んできた方なのか事業所内で共有を図り、生活習慣やこだわり等に配慮し対応している。プライバシーに関する事柄については、居室内等対応する等配慮している。	利用者が出来ることを尊重した介護支援を心掛け、コミュニケーションを取りながら利用者の良い面を活かした介護に努めている。縫い針を持つリスクはあるが、高齢になった今でも裁縫を行っている方もいる。入居者への言葉や語調、尊厳やプライバシーへの配慮については、職員間で話し合うなどしながら周知を図っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	介助の際、声掛けにより意向を確認しながら実施している。どのように過ごしたいかを伺いながら対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴・レク・余暇等、無理強いにならないよう声掛けし実施している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	なじみの衣類を持参して頂いている。更衣時は本人様に確認しながら行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	量・食事の形態を確認しながら提供している。利用者の役割として、食事後の片づけ等を行っている。	ご飯とお汁は職員が調理し、主菜は関連会社の食製品を利用している。一連の作業の中で、盛り付けや食器拭きなどの片付けを職員と一緒にやっている。利用者の希望で、おいなりさんやハンバーガーなどを自前で作り、楽しく食べている。これまでは道の駅に出掛けてソフトクリームやたい焼きなどを楽しんでいたが、今はコロナ禍のため自粛している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各々の嗜好を踏まえ、食事量・水分量を把握し提供するようになっている。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : SOMPOケア そんぼの家 GH釜石平田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者ごとの生活習慣を踏まえ、協力医療機関である歯科医院に指導をいただきながら、口腔ケアに取り組んでいる。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者ごとの排泄リズムの把握に努め、なるべくトイレで排泄していただけるよう図っている。	入居者のうち、3名は自分の意思でトイレを利用しており、6名は声掛けしながら支援している。職員は、排泄記録表を時間帯やトイレ回数の確認、排便のコントロールに活用し、利用者ごとの排泄リズムの把握に努め、適時なトイレ誘導を心掛け対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	レク等による運動機会の確保や、水分摂取量の確保に努め、便秘予防を図っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	併設事業所の業務の都合により、昼食後の時間を入浴時間としている。利用者ごとの入浴の間隔を考慮しつつ、入浴の希望を伺いながら対応している。また、一対一での入浴であり、ゆっくり入浴時間を楽しんでいただけるよう図っている。	入浴は週に2回、曜日は決めないで数日空けて入浴している。異性介助を嫌がる2名の利用者は希望により同性介助としている。車いす利用者の入浴には職員2名で対応するなど、利用者の羞恥心や恐怖心に配慮している。浴室は、職員との会話の場ともなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者ごとの生活習慣や、その時々々の心身状況を踏まえ、十分な睡眠時間がとれるよう入床の介助や声掛けを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方内容の確認、服薬前後の薬包の確認を徹底し、介助している。また、体調の変化に留意し、特変時には主治医や訪問看護ステーションへ報告し、対応の指示を仰ぐようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者のできることや趣味嗜好を個々に把握し、声掛けや環境作りをしたり、職員と一緒に取り組んでいただいたりして前向きに活動していただけるよう図っている。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : SOMPOケア そんぼの家 GH釜石平田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染症の予防のため、日常的な外出は不足しているが、人込みに行かないドライブは実施している。	コロナ禍のため外出は少なくなっているが、人込みを避けたドライブを行っている。夜のイルミネーションを見たり、海岸を見に行ったりしている。天気が良い時には、前庭に出て日光浴を行っている。コロナ禍が明けたら、買い物や食事に行くことを楽しみにしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの方が、お金は施設預かりとなっている。買い物の際には、その都度対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様への電話や手紙は、ご本人様の意向に沿いつつ対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温・匂いなど不快感がないように配慮している。季節ごとに飾りつけなども行っている。	フローアを取り囲むように、各居室や風呂場などが設けられ、各スペースは、車いすでの移動に支障がない作りである。共用の空間は、臭いや音など不快な刺激がないように配慮されており、壁の装飾もすっきりしている。建物内は掃除が行き届き清潔感がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々の利用者が、どこで時間を過ごしたいのか都度確認しつつ、誘導等の介助をしている。事業所フロアにはテーブル席、ソファ席を用意し、好きな場所で過ごしていただけるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、ご本人様を使い慣れたもの(家具、日用品等)を置いていただくようにご家族へ依頼し、居心地が良い空間となるよう配慮している。	居室内には、ベッドと箆箆が置かれ、エアコンと換気扇、収納棚が備え付けられている。利用者は、テレビや机、椅子、家族写真などを持ち込んでいる。裁縫が得意な利用者は、縫い物がいつでも出来る環境に設えている。個々の好みに応じて居室を整えている。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : SOMPOケア そんぼの家 GH釜石平田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	不十分なところもあるかと思うが、利用者個々の能力を踏まえ、居室内や共用空間の環境整備を図っている。(家具の配置等)		